

バレンタインデー

JJ1SXA 池

2月14日は「バレンタインデー」です。

日本では女性から意中の男性にチョコレートを贈ることになっています、これってお菓子メーカーの商魂から転じたのでしょうか？

もともとはヨーロッパのキリスト教起源の風習で、好きな相手にケーキやカードなどを贈ったり交換したりして、愛の告白をしていたそうです。

自由結婚禁止令に異を唱えて処刑された、ローマのバレンタイン司教の命日とも言われていますが、この日は世界的に恋人たちに優しいようです。

商魂からであれ、何であれ、男性諸君今年は、チョコレートが集まりましたか？

日本では、義理チョコとか何とか言って多くの女性が、チョコレートを配ります、私も現役で会社人間の頃は、結構多く頂きましたが、その後のホワイトデーとかのお返しを考えたり、買ってくるのは結構面倒臭かった記憶があります。

宗教とか、信仰ということを考えて見ると、ある日本人の例で言えば、生後間も無く、神社にお宮参り、結婚式は教会で、お葬式は仏式でと、神様、仏様、キリスト様と、随分多彩です。

一寸前に、反社会的な新興宗教団体が立て続けに事件を起こしてマスコミを賑わせましたが、宗教の犯罪も見過ごせない問題です、それはいわば表に出て人目を引く部分であり、本当は影に隠れた、宗教団体の根本的な部分に問題点があるのでしょうか。

世界の歴史の中で、宗教戦争は大問題ですし、余り宗教に凝るのは、良い事ばかりでは無いような気がします。

もちろん宗教には良い面も沢山あるし、立派な信仰者が大勢献身的に働いていますし、厳しい修業を積んだ偉い方も大勢います。

しかし、矛盾し合う各宗教の教えすべてが真実だということはありませんし、その時点で完璧な教えであったとしても、時代の制約を乗り越えることは出来ない筈であり、何千年も未来の社会の変化を予想することなどは不可能だから、その教えは時がたつにつれて社会からずれていく筈です。

信仰は理屈ではないと言われます、確かに信仰の真髄は理屈では無く、そして無条件に他を信じる行為は美しいとさえ言えましょう。

ちなみに、私は信仰心が足りないせいか、余り良い生活はできていないようですが、それでも何とか生きて行くことはできるようです。

祝詞に、経典に聖書と、中身もわからずに、このごちゃ混ぜに関わらされている事がむしろ良いのかなとも思えます。

第 55 号(平成 15 年 3 月発行)掲載